

SARANIP

No.26

市立函館博物館館報

1987. 3. 15

ブラキストン寄贈の石斧

函館博物館には、明治から集められた考古資料が保存されている。ここで紹介する石斧も一例である。

トーマス・ライト・ブラキストンは、イギリス西太平洋商会の貿易事業で文久元年(1861)に函館に来るが、文久3年から明治16年まで、外国人としては非常に長く函館に在留していた。ブラキストンの名は、鳥の研究家として、その動物分布から津軽海峡をブラキスト

ン・ラインと呼ばれたのは有名である。鳥類の剥製標本は、明治12年3月に当時の開拓使函館支庁仮博物場に寄贈になっているが、ブラキストンは、アイヌ民族についても造詣が深かった。

函館公園は高台にあって、縄文時代の遺跡があったところである。イギリス人のジョン・ミルンも公園で発掘しているが、この石斧も公園で発見され、博物場に寄贈になった。

緑色で木目の縞文様のある磨製石斧は大きい。光沢があってずっしりと重く、刃部も破損せず、威儀をたどよわせた貫禄がある。まさに石斧の王様である。

長さが40cmもある。この石斧を見た馬場脩氏は、函館中学の学生のとき感動し、日本人類学、民族学、考古学者として多くの業績をこされた。

〈学芸係長：千代 肇〉



お話をされる故馬場脩先生

昭和61年度特別展

『城と戊辰の戦い』開催される

今回の特別展では、過去に開催された明治維新にちなんだ展覧会ではあまりとりあげられなかった“藩”にスポットをあてた。

その中で、戊辰の戦いで「奥羽越列藩同盟」を組織した東北諸藩と松前藩がどのようにして薩長中心の新政府に対抗することになったのかを、城下絵図・書簡などの資料をとおして知ってもらうことを目的としたものである。

内容は、(1)奥羽鎮撫総督と奥羽越列藩同盟の成立、(2)奥羽越列藩同盟の加盟藩の藩主と城の歴史・同加盟藩の藩内事情と戦い、(3)東北戦争後の処置と蝦夷地の戦いの3部構成として、東北各地の博物館・美術館・図書館など14館と函館図書館から資料を借用し、当館のと合わせて、228件を各藩ごとに展示し、霞会館・新都心五稜郭協議会・市立函館博物館友の会の後援を得て開催された。

資料の中では、借用が難しい若松城下絵図・出羽国秋田居城絵図・新庄城絵図などの城下絵図類、当地においては珍しい錦旗や東北連合軍旗などが特に目をひいていたようである。

また、入口正面に設けたマネキンと城の絵を使った導入部も大好評だった。

昭和58年度の展覧会から引き続いて、今回も五稜郭分館で催し、7月29日から8月24日までの24日間に17,591人の観覧者を魅了することができた。



会場入口風景

好評の導入部のマネキン

場所も五稜郭公園で、内容も箱館(函館)・五稜郭にも関係のあったことから、夏の観光シーズン途上の多数の観光客に交って市民も訪れた。

しかし、資料の借用場所が多岐にわたった為に、二次資料に多く頼らざる得なかったので、これからはこのようなことを改善していくかなければならないと思っている。

観覧者の方々には、当館でこれまでにとりあげたことのなかった藩の内部事情から、明治維新の一端を理解してもらうことができたと思う。

〈学芸員：中村 公宣〉

館の一部改装を終えて

館長 加納 裕之

説明である。

当館の老朽化も当然の成り行きで雨もりや漏水防止のための上屋や外装工事、何か所かの鉄扉の改修、今回やっと展示室の一部を改装することができた。待望久しかったので職員は新築でもするような気持で業者の相談に応じたり、アドバイスをしたりで2か月におよぶ工事を終え、担当学芸員の指示にしたがって展示が進み、数日後完了した時の各職員の満足顔……。展示された資料も場に相応しく落ち着き輝いていた。職員と資料と展示室の呼吸が合致したかのようである。一点の資料が人目を引きつけることはよくあることだが、室全体が展示室のテーマに相応しくその雰囲気を醸し出しているところは少ない。そんな中でこの室の展示はよくできたと思う。おそらく観覧者の目と心をとらえずにはおかないと。この改装で喜びを感じ職員共々新たな年に向って意欲を湧せた年末であった。

20数年前、斬新な博物館として再スタートをして、市民は勿論のこと全国各地から見学者・視察者がおとずれ、羨望の的になった時期があったが、今は改修や補修に頭を悩ませている。近年は博物館・美術館の新設ブームであり、大変結構なことであるが、新しいアイデアや技術にたより過ぎてはいないだろうかと疑問を抱くことがある。外観は中世ヨーロッパの城や音楽堂を模したもの、あるいは宇宙基地を連想させるものなど多彩である。また内部は最新の技術力を駆使したコンピューター導入による諸設備、移動式陳列ケースの台までもエレベーター付、壁面の色調も何色にでも変えられるなど諸技術の粋を結集した館……。あまりにも立派すぎてせっかくの展示品も引き立たないという珍現象も起っていると指摘する人も多い。また建物の寿命も不安であるという。途中で手を加えながらで40年～50年、機器類は3年～10年が限度だろう……と、とてもたよりない

楽しい体験実習の場

—昭和61年度市民講座から—

毎年開催されている博物館の市民講座が、今年も生態1回・考古1回・歴史1回・民俗2回・民族1回企画された。

その中で主なものをみると、考古は恒例の「親と子の土器づくり」を昭和61年7月12日、34名の母親と子が参加して開催した。これは人気講座の一つである。博物館に展示中の土器を参考にし、粘土に向かって汗を流していた。

民族は「アイヌの技—アツシを織る—」をアイヌ民族服飾研究家の児玉マリ氏を講師として11月15日開催した。織機の模型で実際に織りながらアイヌの技についての説明を受け、参加者自らも織ってみた。しかし、なかなか思ったほどうまくできず、講師の手元を何度も見て、どうにか理解できたようである。参加者は18名であった。

今年度2回に分けた民俗は、「わらぞうりをつくる会」を11月16日、「わらじをつくる会」を12月7日各々開かれた。博物館所蔵のわらぞうり・わらじ・つ

まご・ふかぐつなどを見ながら、函館市石川町に住む長年わら細工をしてきた藤沢吉三郎氏を講師として、手とり足とり説明を受けていたが、なかなかうまくゆかない。でも奮闘5時間、どうにかほとんどの人は1足ずつ作りあげた。



わらぞうりづくり

その他、生態は中止となったが、歴史は「箱館戦争と古地図」ということで史跡めぐりを行なった。

市民講座は、通常2,30名を定員として募集しているが、参加者の内訳は女性が多く、30才代から70才代までと巾広く、しかも熱心な方がたくさんおられた。5講座参加者数98名が昭和61年度の結果である。

楽しみながら学べる体験学習の講座として、博物館学芸員が、または各分野の専門家を講師として、より充実したものにしてゆきたいと考えている。

〈学芸員：岡田一彦〉

昭和61年度科学教室から

当館の科学教室は、昭和32年開催以来、早いもので今年度で30年目を迎えた。今年度も昨年度と同じく、計10講座を企画開催したが、講座内容は新たな企画として「交通」の分野を加え、天体（観測会5回）・植物（野外観察会2回、1回は雨天のため中止）・昆虫（野外観察会1回）・交通（見学会2回）であった。

天体の分野では、4回を春・夏・秋・冬の星座観測会として科学教室創設以来講師をお願いしている津川軍次郎氏から星座の説明、そしてスライド映写など楽しく学習した。もう1回は、函館天文同好会の梅田晃司氏の「天体望遠鏡の使い方と月の観測会」を実施した。天体望遠鏡の構造、使い方などを説明の後、五稜郭分館前に出て実際に天体望遠鏡を使い月の観測をおこなった。参加児童のほか、同伴の父兄も加わり神秘的な中秋の名月の姿に、感嘆の声をあげていた。

植物の分野は、雨天のため五稜郭公園付近の観察会のみ実施した。植物観察入門編の講座内容で講師の宗像和彦氏から草花の構造や種類などわかりやすく説明していただき、その後、公園付近の植物観察をおこなった。

昆虫の分野では、久しぶりに市内を出て、森町グリーンピア大沼で観察会をおこなった。市内では様々な条件から、野外観察に適した場所がなくなってしまった。

きているが、グリーンピア大沼は昆虫観察向きのハイキングコースがあり、休憩所などの施設も整備されており、昆虫観察会に最適な場所である。参加した子供たち、同伴の父兄は講師の中嶋康二氏の指導を受け、クワガタムシ・カミキリムシ・アゲハチョウなど日頃市内では見られない昆虫を観察し採集もおこなった。参加者にとって充実した楽しい一日となつたようである。

新企画である交通の分野は、「市電のしくみと駒場車庫見学会」、「国鉄五稜郭車両所見学会」を実施した。駒場車庫見学会では市電711号を交通局のご厚意により貸切り、谷地頭～どく前～駒場車庫と走り、車内でポイントのしくみなどの説明を受け、車庫到着後は、交通局職員の方々から市電の歴史、現状を説明いただき車庫内を見学した。また製作中の花電車など見ることができ、たいへん好評であった。もう一つの国鉄車両所見学会も普段は見られない特急車両のエンジン、改造中の寝台車などが見られ、説明いただいた国鉄の方々に活発な質問が出るなどこちらも好評を博した。

今年度の全参加者は昨年より若干少なく235名であったが、同伴者が多かったのが特徴で、同伴父兄を含めると360名ほどに達した。

今後も新しい企画を盛り込みながら、天体など定着した分野についてもより充実した内容となるよう努めていくつもりである。

〈学芸員：尾崎涉〉

「市立函館博物館蔵品目録」つぎつぎ発行される

昭和54年、函館博物館100周年から始められた総目録の刊行が、現在まで各部門の担当学芸員の手で順調にすすめられている。

=既刊=

- | | |
|------------|------------------|
| 1.民族資料篇 | 昭和54年 〈姫野・岡田〉 |
| 2.美術工芸資料篇 | 昭和56年 〈岡田〉 |
| 3.歴史・民俗資料篇 | 昭和57年 〈岡田・中村・根本〉 |
| 4.地質鉱物篇 | 昭和59年 〈千代・尾崎〉 |
| 5.動物篇 I | 昭和61年 〈尾崎・中村〉 |
| 6.動物篇 II | 昭和62年 3月発行予定 |

=未刊=

- | | |
|---------|--|
| 7.植物篇 | 昭和64年度中発行予定
〈尾崎・中村〉 |
| 8.考古資料篇 | 昭和65年度中発行予定
〈尾崎・中村〉 |
| 9.補稿篇 | このほか、寄託資料の児玉コレクションの目録も
刊行されている。
1.先史・考古資料編 昭和58年 〈長谷部〉
2.アイヌ民族資料編 昭和62年 〈長谷部〉
〈千代・長谷部〉 |

市立函館博物館蔵品目録6

「動物篇II」の編集すすむ

昨年度は、主に貝類、魚類標本など1,167件を収録した「動物篇I」を発行したが、引き続き今年度は、「動物篇II」を発刊することとなった。

「動物篇II」には、昆虫類2,984件・両生類1件・爬虫類26件・鳥類69件・哺乳類55件、計3,135件におよぶ動物標本が収録されている。

これら数多くの標本は、明治期に捕獲され、寄贈されたセイウチ（海象）、イノシシのはく製をはじめ、昆虫類では昭和20年代から40年代にかけ、函館昆虫

同好会会員の手により採集された道南の蝶など、どれもきわめて貴重なものばかりである。

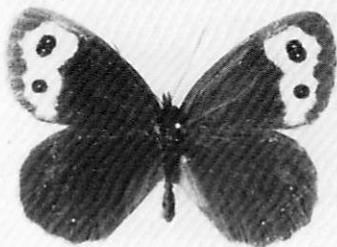
整理作業は、昭和58年夏ごろから始め、標本の同定、分類などについては各分野の専門の先生方にお骨折りいただいた。ここにあらためてご指導、ご助言いただいた方々にお礼申しあげます。

また、個々の標本で不明な点は、今後の調査・研究によって明らかにしてゆきたい。

「動物篇II」は、B5判145頁、図版6頁で、当館の他、市立函館図書館、そして全国の博物館、研究機関などでも閲覧できるようにしたい。

これら数多くの標本とともに、本目録が有効に活用されれば幸いである。

〈学芸員：尾崎 渉〉



ベニヒカゲ

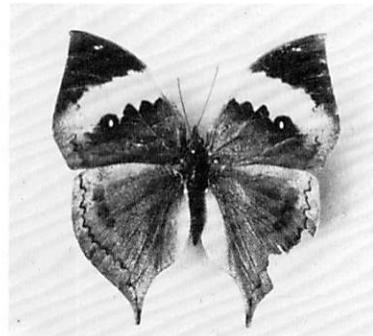
(1654)

「児玉コレクション目録」の発行を終えて

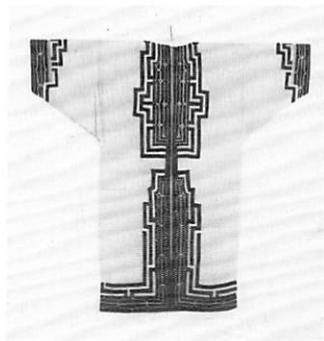
「児玉コレクション目録I 先史・考古資料編」の発行以来、早いもので3か年が経過し、その間アイヌ民族資料の整理に携ってきたが、ようやく「児玉コレクション目録II アイヌ民族資料編」を発行することができた。昭和55年8月に当博物館に寄託されてから実に6年越しの児玉コレクション目録の完結である。

目録に収録された資料は、周知のとおり元北海道大学名誉教授児玉作左衛門氏が40余年もの長い年月をかけて収集されたもので、その調査・研究の成果は、数多くの著名な調査・研究報告書に紹介され、考古学研究・民族学研究・北方文化研究等各学界において不可欠な存在にあり、事実資料の分類・カード化等一連の整理作業の中でこれら一つ一つの資料を手にした時、改めて児玉教授の業績の偉大さを痛感する次第である。

児玉教授の残されたこれら貴重な資料は、ご遺族



コノハチョウ (1618)



樺太アイヌの衣服
草皮衣(レタルペ)
比類ない世界的一大コレクションに位置づけられて

の努力により氏の生前のご意志を継承しつつ着実に新たな調査研究への媒体として生きていることはいうまでもないが、ご遺族の資料に対するひたむきな愛情と熱意によつて各研究分野の

いるといつても過言ではない。

寄託された児玉コレクションは、目録の発行をもって一応整理を終了し、今後各研究分野への有効活用に供してゆく予定であるが、これらの貴重な資料を通して児玉教授およびご遺族の真意を多くの方々に伝えることができたらこの上もない児玉コレクションの有効活用につながるものといえよう。

この長期間の資料整理、目録発行には、詳細にわたるご指導をご遺族の児玉とみ夫人、児玉マリの両氏からいただいた。このご協力は、永く当館の記録に銘記されることである。

〈学芸員：長谷部 一弘〉

事業報告 (61. 1. 1~61.12.31) 抄

◎資料管理・整理・保存

○受入

- 奇趣真写譜 (天・地) 2件
【橋本典幸氏寄贈・函館市美原2丁目5-16】
- のれん 1件
【辻 廣男氏寄贈・函館市中島町31-30】
- 流しひな 1件
【中西恵子氏寄贈・函館市大繩町18-16】
- 古銭、古紙幣 一括
【富下キク氏寄贈・函館市柏木町6-30】
- 十二支花鳥図屏風 1件
【川村礼子氏寄贈・函館市栄町8-12】
- 金蒔絵なつめ他 2件2点
【富下キク氏寄贈・函館市柏木町6-30】
- 飯田家資料 64件
【美濃谷豊氏寄贈・函館市弥生町8-21】
- 高田屋嘉兵衛資料 一括
【堀田信孝氏寄贈・和歌山県白浜町中1700】
- 木挽き鋸 3件
【小林吉三郎氏寄贈・函館市富岡町2丁目69-12】
- ワニ (はく製) 1件
【西浜長太郎氏寄贈・函館市入舟町10-17】
- 陸軍作戦記録画 1件16点
【重松寿美氏寄贈・亀田郡七飯町字大川91の37】
- 50カペイカ銀貨 1件
【小野弥生氏寄贈・函館市中道1丁目10-7】
- 青函連絡船写真 (パネル) 1件151点
【朝日イブニングニュース社・東京都中央区築地7丁目8-5】
- 国鉄機関士胸章他 19件
【小倉 悟氏寄贈・函館市龟田本町14-9】

○整理

- 児玉コレクション整理
自然科学資料 (動物) 整理

○保存

- ばく涼
本館 (展示室政修工事含む・11月1日~12月28日)

分館 (9月19日~30日)

○貸出

- 函館水の歴史展 13件
(1月25日~2月18日・五稜郭タワー史蹟館)
- 旧函館区公会堂常設展示 2件
(4月1日~3月31日)
- 函館市北洋資料館常設展示 25件
(4月1日~3月31日)
- 函館アラスカフェア 4件
(9月3日~9日・丸井今井函館支店)
- 北海道商家フェア「北の商いー生活と文化展」 9件
(10月7日~15日・札幌・丸井今井一条館)
- 道立函館美術館常設展示「道南ゆかりの作家」コーナー 1件
(9月5日~11月10日)
- 畜牛原人展 9件11点
(11月18日~25日・ボーニアネックス)
- 函館の絵画100年展 1件
(11月4日~12月25日・道立函館美術館)

○展示

○特別展

- 城と戊辰の戦い (分館 7月29日~8月24日)

○企画展

- ひな人形展 (資料館 2月23日~3月2日)
新収蔵資料展 (本館 5月20日~6月4日)

○常設展

- 展示替 (本館 12月)

○教育普及

○市民講座 (5回 98名)

- 親と子の土器づくり (7月12日)
- 箱館戦争と古地図 (10月4日)
- アイヌの技ーアツシを織る (11月15日)
- わらぞうりをつくる会 (11月16日)
- わらじをつくる会 (12月7日)

○科学教室（9回 235名）

- 春の星座観測会（5月10日）
 植物野外観察会（5月17日）
 夏の星座と七夕観測会（7月5日）
 市電のしくみと駒場車庫見学会（7月29日）
 昆虫野外観察会（8月7日）
 国鉄五稜郭車両所見学会（8月12日）
 天体望遠鏡の使い方と月の観測会（9月18日）
 秋の星座観測会（10月11日）
 冬の星座観測会（11月8日）

○出版

- 3月15日 館報「サラニップNo.25」発行
 3月31日 藏品目録5「動物篇I」発行

○調査・視察・団体観覧

- 3月11日 苫小牧市立博物館学芸員視察
 4月18日 旭川市立啓北中学校教諭視察
 5月8日 小平市議会文教委員会一行視察
 5月21日 青函市民文化交流視察団視察
 5月22日 創玄書道会金子鷗亭氏視察
 6月4日 秋田市教育委員会教育委員資料調査
 6月13日 当別町文化財調査審議会委員一行視察
 6月17日 奈良国立文化財研究所町田氏資料調査
 7月2日 八王子市郷土資料館学芸員資料調査
 7月4日 大阪大学黒田教授資料調査
 7月4日 岩手県埋蔵文化財センター佐々木氏資料調査
 7月9日 早稲田大学金子講師資料調査
 7月10日 柏崎市議会議員一行視察
 7月17日 三鷹市議会議員一行視察（分館）
 7月22日 横浜市議会議員一行視察
 7月22日 札幌市議会議員視察
 8月5日 京都大学上横手教授資料調査
 8月5日 北海道文化財保護協会一行視察
 8月9日 英国・ホーニマン美術館長視察
 8月13日 沖縄・伊勢豆記者一行視察（分館）
 8月20日 道立近代美術館一行視察
 8月22日 国学院大学校史資料室益井氏資料調査
 8月22日 世田谷昆虫愛好会福田氏外資料調査
 8月28日 苫小牧市立博物館副館長外視察
 8月28日 北京大学王副教授外視察
 9月9日 外務省欧亜局外務事務官外視察
 9月10日 千葉県議会議員一行視察
 9月14日 北海道埋蔵文化財センター中田氏資料調査
 9月18日 千葉市教育委員会職員資料調査
 10月2日 在日フランス大使一行視察
 10月21日 同志社大学鈴木氏資料調査
 10月22日 早稲田大学所沢文化財調査室西連寺氏資料調査

○写真撮影・提供・転載許可

博物館資料の写真撮影など 63件

○実習生受入（7名）

- 北海道教育大学函館分校（9月2日～25日）5名
 中央大学（9月2日～25日）1名
 弘前大学（9月13日～25日）1名

○調査活動

「五稜郭」「箱館戦争」の調査研究並びに資料収集
 西部地区の歴史的調査研究並びに資料収集

○会議出席

○博物館協議会開催（2月15日、9月11日、11月7日）

○人事異動

- 本庄忠一主事発令（5月7日付）
 野村清主事市民部戸籍課に異動（5月7日付）
 本谷正雄嘱託亀田青少年会館に異動（5月31日付）
 井上三郎嘱託発令（9月16日付）
 小板節子主事退職（12月12日付）
 下條美輪子臨時職員採用（12月16日付）

入館者統計

昭和61年常設展示（61.1.1～12.31）

月別	本館	分館	資料館	計
1	220	449	192	861
2	325	969	543	1,837
3	614	1,754	682	3,050
4	906	2,911	546	4,363
5（企画展）	7,170	16,091	1,805	25,066
6（企画展）	3,500	11,942	1,350	16,792
7	1,529	（特別展）5,782	1,649	8,960
8	2,604	（特別展）—	3,516	6,120
9	1,806	6,574	1,715	10,095
10	1,089	5,966	1,131	8,186
11（休館）	—	2,801	400	3,201
12（〃）	—	380	160	540
計	19,763	55,619	13,689	89,071

昭和61年度特別展 五稜郭分館（7/29～8/24）

月別	個人	団体	計
7	1,641	139	1,780
8	15,198	613	15,811
計	16,839	752	17,591

昭和61年度企画展 博物館本館（5/20～6/4）

5	408	2,585	2,993
6	250	248	498
計	658	2,833	3,491

—あとがき—

※今年度も終わろうとしているが、忙しい1年であった。事業報告抄には、新収蔵資料展・特別展・市民講座・目録刊行などが記されているが、この一行に学芸員の汗と涙が滲んでいる。来年度も市民に喜ばれる博物館のため頑張ってゆきたいものだ。

〈学芸員 岡田 一彦〉

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ—No.26 1987. 3. 15発行
 編集・発行 市立函館博物館（TEL 0138-23-5480）
 北海道函館市青柳町・函館公園内（〒040）